

事例研究報告

**小学部低学年児童における
設定された時間内にスケジュールを
終わられるための指導**

児童・生徒の実態

- 小学部 2 年児童， 中度知的障がい
- 発達年齢 3 歳 2 か月
- 3 語文程度の簡単な受け答えができる。
- 即時で具体的（お菓子・好きなシールがもらえる）な評価が有効であるが，ごほうびに飽きやすい。
- 遊び後の切り替えが難しい，逸脱が多くスケジュールが進まないなど，自己統制面に課題がある。

保護者の願い

- ・一人でできることが増えてほしい。

教員の願い

- ・自己統制力を身に付け，自身の行動を調節できるようになってほしい。
- 一人でスケジュールを進められるようになってほしい。

アドバイザーからの助言

- ・スケジュールにごほうびタイムを設定する。
- ・ごほうびのお菓子を見える場所に置いておき，できたらすぐにお菓子を渡して強化を行う。
(他場面での成功例があるため)
- ・飽きないように強化子の種類をたくさん用意しておく。



AI-PACの俯瞰図より，「文字スケジュール」を選択し、
○スケジュールに沿って活動できる。
○強化の仕組みを理解し，見通しを持って活動できる。
の2点を目的として指導を行うこととした。

指導目標

朝の活動時の9個のスケジュールを15分以内に終わることができる。

指導の手続き

- ①朝の活動時の9個のスケジュールを4つに区分し、それぞれ時間内に終わられたらお菓子が食べられるよう伝える。
- ②絵カードタイマーを設定し、活動を始める。
- ③時間内に終わることができたらお菓子が入ったケースを開け、称賛する。
- ④この手続きをそれぞれの区分で繰り返す。

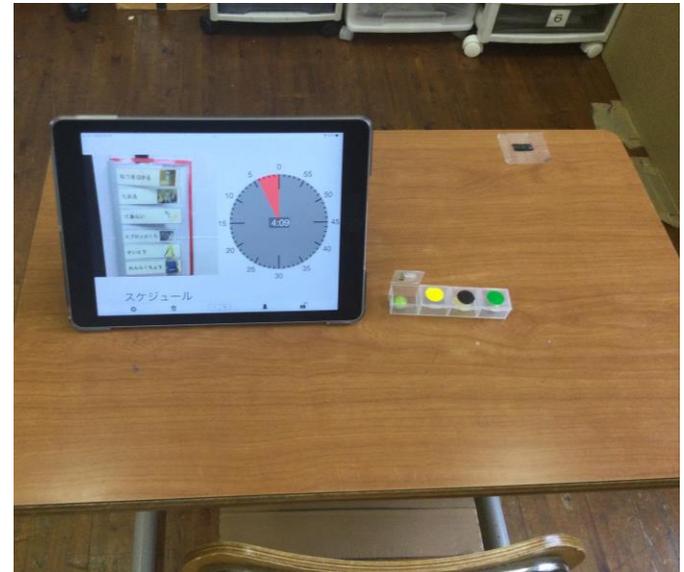
環境設定



スケジュール



強化子
(お菓子)



絵カード
タイマー

記録方法

指導目標	時間内にスケジュールを終えることができる
+	時間内に終わることができた
P	トランジションカードや言葉かけの支援を受けて、時間内に終わることができた
—	時間内に終わることができなかった

※ 3回以上+が続いたら次のステップへと移行する。

結果

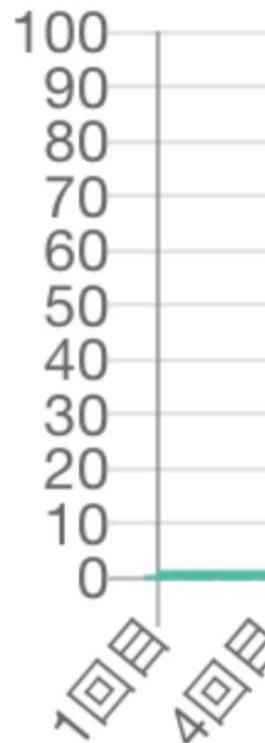
ベースライン

9個のスケジュールを15分以内に
終える。(強化子なし)



15分

正反応
(%)

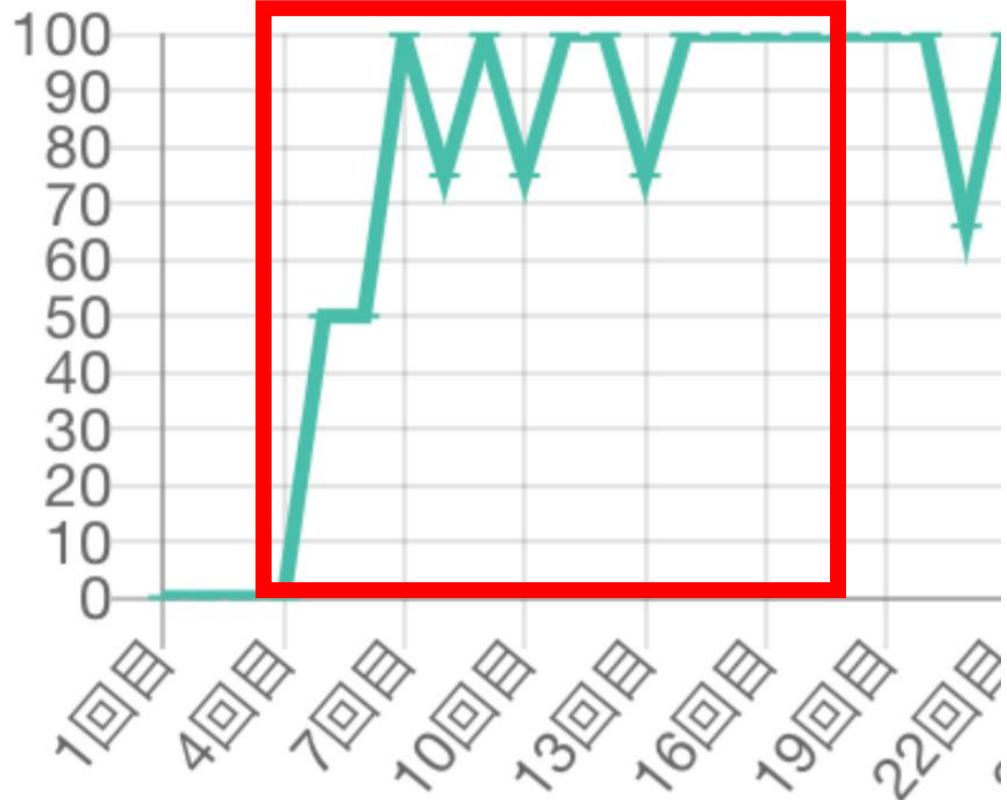


結果

ステップ1

4区分のスケジュールをそれぞれ時間内に終える。（4回目～18回目）

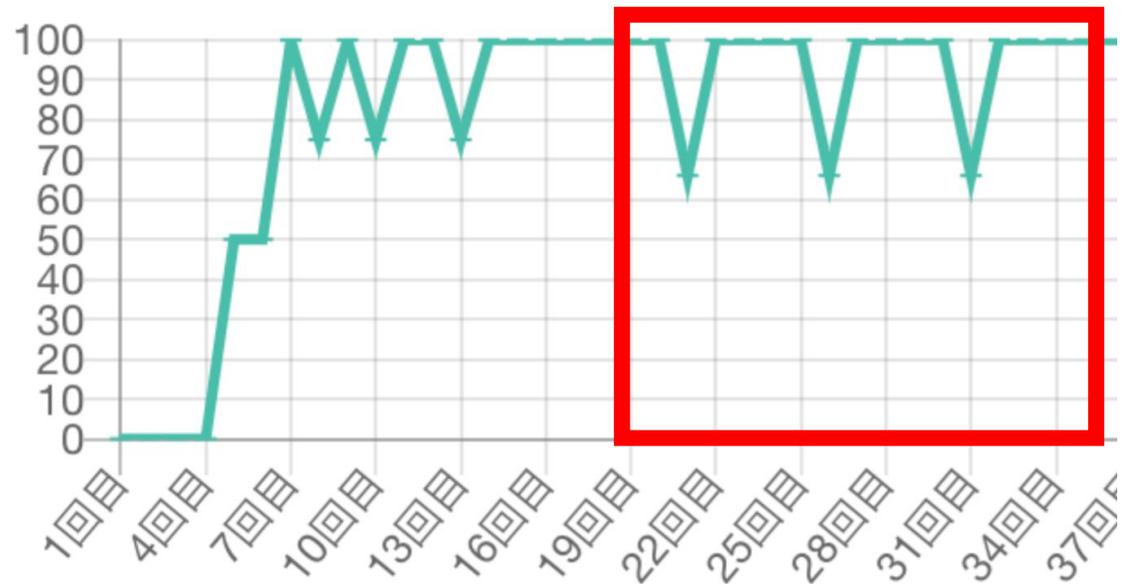
※グラフの見方
4回中2回ひとりで時間内にできた・・・50%
4回中3回ひとりで時間内にできた・・・75%



結果

ステップ2

3区分のスケジュールをそれぞれ時間内に
終える。(19回目～36回目)



結果

ステップ3

2区分のスケジュールをそれぞれ時間内に
終える。(37回目~39回目)



考察

- 強化の仕組みが理解できると、時間を意識してスケジュールを進めることができた。
→取り組む前に強化子を意識づける言葉かけが有効であった。
- 本人にとって、魅力的な強化子（お菓子）である程、成功率が高い。
- 次の段階として、どのような指導を行っていけばいいのか？

アドバイザーからの助言

- **強化子を変更して取り組んでみる**

→強化子の飽きを防ぐ，強化子が変わっても時間内にスケジュールを終えることができるか確認する。

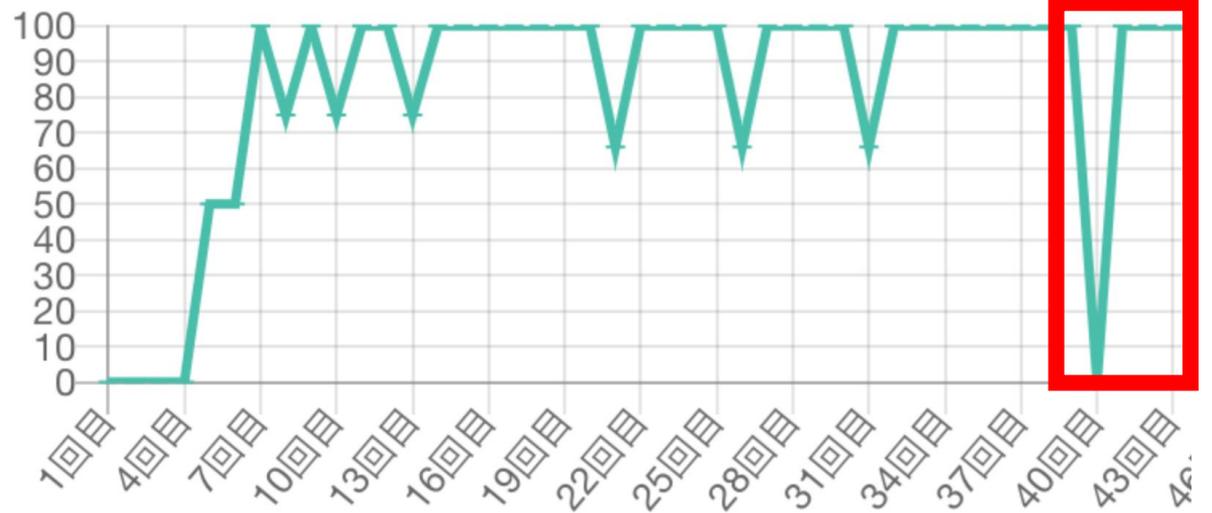
- **ベースラインの環境設定に戻して取り組んでみる**

→強化子をなくしても時間内にスケジュールを終えることができるか確認する。

記録

ステップ4

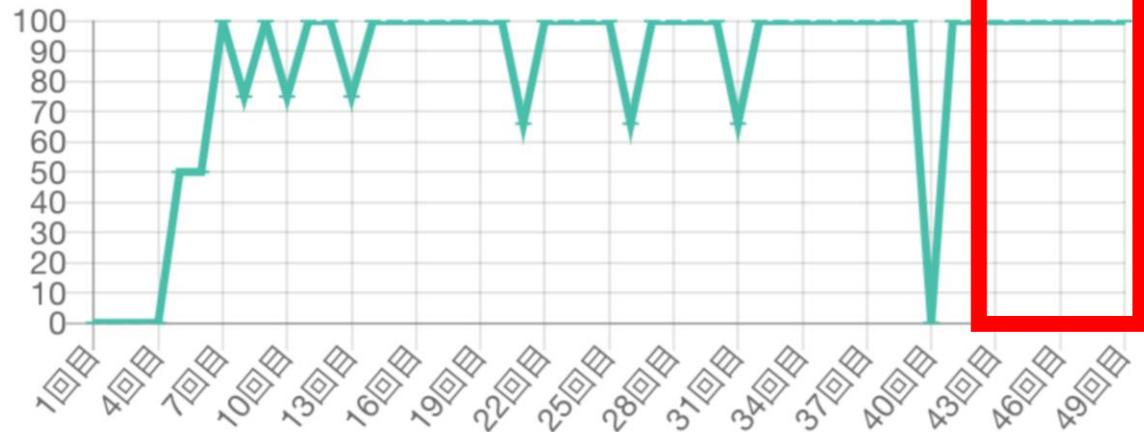
9個のスケジュールを15分以内に終える。
※強化子あり（40回目～43回目）



記録

ステップ5

9個のスケジュールを15分以内に終える。
※強化子なし・ベースラインと同じ
(44回目~49回目)



指導の成果

- 強化の回数を徐々に減らし、最終的には強化子がなくても時間内にスケジュールを終えることができた。
- 般化として指導する教員を変えた（24回目、30～33回目：相担任）（49回目：担任外）が、時間内にスケジュールを終えることができた。
- 他場面でも強化子を意識して活動する様子が見られた。（iPadができることを楽しみに、帰りの準備を時間内に終える等）

ここが成功のポイント

- 絵カードタイマーを使用したり，スケジュールとお菓子のケースを色で対応させたりすることで，時間や強化の仕組みが視覚的に分かりやすい環境を設定できたこと。

→見通しを持って取り組むことができた。

- 指導の段階を5つに分けたこと

→スモールステップで無理のない定着を促すことができた。